

令和7年度 第1回木更津市文化財保護審議会 審議録

- 1 会議名 令和7年度 第1回木更津市文化財保護審議会
- 2 開催日時 令和7年8月6日（水）午後2時00分～4時00分
- 3 開催場所 木更津市立中央公民館 第7会議室
光明寺・富士見厳島神社
- 4 出席者 文化財保護審議会委員 出席5名
古泉委員（会長）・高崎委員（副会長）
笹生委員・御巫委員・黒田委員
解説 1名
石川丈夫（鴨川市市史編さん主任委員・鴨川市文化財保護審議委員
・南房総市文化財審議委員）
教育委員会事務局 4名
曾田教育部長・水越教育部次長兼文化課長
齋藤文化財係長・酒巻副主幹
- 5 会議内容 報告事項
第1号 市指定文化財「木更津船之由緒書」の所有者及び所在の変更
視察
・光明寺薬医門 墓股「力士像」（武志伊八郎信由関連作品）1点
・光明寺薬医門 木鼻「獅子と牡丹」（武志伊八郎信由関連作品）1対
令和7年2月26日付千葉県登録文化財登録
・富士見厳島神社の社殿彫刻 3点
平成23年6月29日市指定文化財指定
審議
- 6 公開・非公開の別 公 開
- 7 傍聴人 なし
- 8 議事進行
齋藤係長 定刻となりました。只今より、令和7年度第1回文化財保護審議会を開催いたします。開催に際し、本日の会議について報告させていただきます。
本日は、本会場へ5名、委員の半数を超える全員のご出席をいただきましたので、木更津市文化財保護条例第20条第2項の規定により、本会議は成立している事をご報告いたします。
また、「木更津市審議会等の会議の公開に関する条例」により、本日の審議会の議事等は公開で行う旨を併せて、ご報告いたします。
なお、議事録作成のため会議の内容を録音させていただきますことを

ご了承願います。

はじめに、4月より事務局も新しい体制となりましたので、職員を紹介いたします。

【職員紹介】（曾田部長より酒巻副主幹まで4名）

また、本日の会議にあたり、傍聴人の方はおりません。

それでは次第に従いまして、初めに古泉会長からご挨拶をお願いいたします。

【古泉会長挨拶】

齋藤係長 ありがとうございます。引き続き、曾田部長よりご挨拶申し上げます。

【曾田部長挨拶】

齋藤係長 ありがとうございます。それでは、木更津市文化財保護条例第19条第3項の規程により、「会長は、審議会を代表し、その会務を総理する。」こととなっておりますので、議長を会長にお願いするものといたします。よろしくお願いいたします。

古泉会長 それでは、議長を務めさせていただきます。委員の皆様には、議事の円滑なる進行に、ご協力をお願いいたします。

令和7年度第1回木更津市文化財保護審議会の審議を進めてまいります。まず、事務局へ本日の議事についての説明を求めます。

齋藤係長 はい、本日の会議内容は、お手元の資料にありますとおり、報告事項1件となっております。その後、「武志伊八郎信由関連作品の視察」となっております。

古泉会長 それでは、報告事項について、事務局から説明を求めます。

齋藤係長 それでは、報告第1号 市指定文化財「木更津船之由緒書」の所有者及び所在の変更についてでございます。

市指定文化財「木更津船之由緒書」1点（昭和40年9月6日指定）について、令和7年6月11日付で、所有が木更津市に、所在場所が「木更津市郷土博物館金のすず」（木更津市太田二丁目16-2）に変更になりました。

「木更津船之由緒書」は個人所有でしたが、このたび、木更津市へご寄付いただけることになりました。また、木更津村の名主文書を中心とした同個人の「重田家文書」もあわせて、寄付されました。8月初旬に燻蒸^{くんじょう}を行った後、「木更津船之由緒書」を含めた「重田家文書」が、郷土博物館金のすずで保管されます。文書保存箱で5箱程度の分量がありますが、今後、市史編さん事業での近世部会が目録作成、調査を行う予定です。

古泉会長 只今の報告について、ご質問等はございませんか。ございましたらご

発言をお願いします。

古泉会長 特に無いようでしたら、続きまして、この後、視察があるようですが、事務局よろしくをお願いします。

齋藤係長 視察は「武志伊八郎信由関連作品の視察」となっております。

令和6年度第3回文化財保護審議会の第2号報告「宗教法人光明寺武志伊八郎信由関連作品の千葉県登録文化財登録について」で報告いたしました、光明寺薬医門の、「初代伊八」こと武志伊八郎信由が制作した彫像についてです。

光明寺薬医門の、^{かえるまた}墓股「力士像」1点と、^{きばな}木鼻「獅子と牡丹」一対が令和6年度2月26日付で千葉県登録文化財に登録されました。

また、平成23年6月29日に市指定文化財に指定しました、富士見厳島神社の社殿彫刻ですが、同じく「初代伊八」が制作した彫像です。今回、県の登録文化財となったことで、市内の初代伊八の彫像が指定と登録で2件となりました。今回の視察ではこの2件の彫像を実見し、木更津地域での、初代伊八の活動の様子を捉えていければと考えています。

古泉会長 本日の視察にあたり、初代伊八の彫像の解説のため、鴨川市市史編さん主任委員・鴨川市文化財保護審議委員・南房総市文化財審議委員の石川丈夫さんをお招きしましたので、ご紹介させていただきます。

石川さんは、武志伊八郎信由のご研究をされています。光明寺薬医門「武志伊八郎信由関連作品」の千葉県登録文化財への登録と、富士見厳島神社の社殿彫刻への市指定文化財への指定にあたり、調査・報告をいただいております。

齋藤係長 ご足労ですが、徒歩にて光明寺まで移動願います。薬医門の彫像をご視察後、富士見厳島神社へ向かいます。2か所のご視察後にこちらに戻り、ご意見、ご感想等をいただければと思います。

【視察場所へ誘導→石川氏説明】

【視察場所からより中央公民館へ誘導→審議再開】

古泉会長 それでは、審議を再開いたします。只今ご視察いただいた、武志伊八郎信由関連作品について、ご意見、ご感想等をいただければと思います。委員の皆さん、いかがでしょうか。

笹生委員 八剱八幡神社の境内の摂社を見てきました。脇障子が、ちょうどあの大きさに近いのじゃないかと思いました。草薙の剣の話と、天岩戸の話、八岐大蛇の話をケヤキの白木材で作っている。あれがおそらく江戸末期か明治時代か、だいたい内容から見ると明治時代で、それから一段階古いのが、弁天様ではないかと思います。構造的に見たら、脇障子の太

きさを考えると、同じような流造ながれづくりの小規模な社殿で、結構、極彩色の社殿が宮殿的な形であって、その外側に、鞘堂きやどうが建ち、そこに入るような構造も弁天様を考えていいのかなと思いました。結構、派手な社殿で外側に覆屋おおいやがあるといえます。富津市竹岡つくるみ（造海）の三柱みつはしら神社に三間社さんげんしゃ流造がありますが、それと同じように小規模な流造で、派手な社殿でそれに覆屋おおいやがつくというのは、建築時からの可能性もあるので、当初から彩色をきちんとしていた彫物と彩色をした華麗な社殿であった可能性があるのかなという感想です。

古泉会長
笹生委員

木更津というと、弁財天ということになりますね。

弁財天が明らかに、楽土の特色も含めて、音楽、芸事との守り神、花街の守り神で、その時、水神的な海上交通との関係で、早い段階で、弁財天が色街にできるという流れも考えられます。

古泉会長
笹生委員

木更津の歴史とあわせて考えられますね。

木更津の港町と、繁華街の歴史というのと関わってくるのが、弁財天の信仰だと思います。

先ほど見ました、伊豆石で作られた、文政7年の鳥居ですが、おそらくあれを作るということは、文政7年に整えていって、その前後に派手な宮殿を持った、鞘堂に入った巖島神社ができたという気がします。

石川丈夫氏

ちょっと捕捉しますが、10年くらい前に、神奈川県湯河原町で伊八の作品が見つかりました。それは、伊八の40歳代の前半ぐらいの時代、これはおそらくですが、伊豆石の積み出しは、おそらく海路で人が行き来する中で、先ほど光明寺でお話した、木更津で仕事を取っておけば、木更津から物資や人の流れとともに、伊八の評判というのが広がっていった、今後の仕事につながるという目論見があったかもしれない。それがひとつの形として、結実したのが、湯河原町の仕事であったのではないかと思います。おそらく伊八が、直接、湯河原へ営業にいったというよりも、木更津で仕事をしたという評判が、木更津から海を渡って、物資の流通とともに広がっていった、湯河原町から仕事の注文を受けたと考えられるので、私としては、伊八に限らず、情報発信源として、江戸時代の木更津というのはかなりのポイントだったのではないかと考えています。

古泉会長
石川丈夫氏

神奈川県湯河原の素鷲すが神社に伊八の作品があるんですね。

「房州 長狭群 下打墨住 武志伊八郎信由」という、銘があります。結果として、湯河原町で仕事があったのは、船で結ばれた関係があったからだと思います。

古泉会長

他に何か、ご意見がありますか。

御巫委員 厳島神社の白く塗られていたウサギの彫像は、今後の調査の予定はどうなっていますか。

石川丈夫氏 あのような状況で残っているのを、どのように調査を進めていいのか、そういうパターンを経験していないので、表面の塗料をはがすとかしていけば分かるのかもしれませんが、そこまでやるのはハードルが高そうです。

御巫委員 漆喰^{しっくい}なんですか。塗料なんですか。

石川丈夫氏 塗料よりも層が厚い、ペンキなんでしょうか。当初、かなり傷んでいたと思うので、そういう層をはがしていけば、それなりに、私の想定では 40 代半ばぐらいの伊八のウサギの形が出てくるのではないかと思います。

黒田委員 X線でやるとか、壊さない方法があるかなと思いますが。

石川丈夫氏 そういう研究機関が無償でやるとか、そういう可能性があるかもしれない。私もよく調べていくと、顔料の成分分析をやると、いろいろなことが分かるんじゃないですかということを言われるんですけど、誰が責任を持ってやるのかという事と、研究機関の方から調べさせて欲しいという話があって、サンプルとして提供して調べてもらうのが手だと思います。

黒田委員 例えば博物館で、木更津の伊八に関する企画展をやります、その時に彫像は展示できないから、分析・修復の研究結果で展示していくということは可能なのではないのでしょうか。お話の通り、かなりいろいろな事がお分かりになって、それを形にして発表する機会があってもいいのかと思いました。

石川丈夫氏 私は退職して3年程たちましたが、鴨川市郷土資料館で臨時職員で勤めています。今年は西暦2025年なので、伊八没後200年なのですが、その記念で、展覧会をやろうと思うんですが、物を展示して人を呼ぶのが一番、来客率がいい、研究成果だけでは展示というのはまだまだ難しいかもしれませんし、私が調べているのは文書とか、物を調べて科学的な分析とかは全くやっていないので、まとめて、発表するというのは時間がかかります。

黒田委員 伊八の高精細画像の視覚化というのはなさっていないのですか。

石川丈夫氏 科学的な分析というのは、これからです。今は、千葉大学工学部総合工学科デザインコースが今年取り組みとして、助成金をもらって詳しく3Dデータを取って実物大で再現しようとしています。プラスチック材で組み立ててプリントしていくのではなくて、木で精密な3Dのプリントをやっていくということを進めています。それを、資料館の企画展で展示をしていこうという話になっています。

- 古泉会長 これからも研究を進めてほしいと思います。高崎先生、何かご意見はありますでしょうか。
- 高崎委員 笹生委員の話を伺いますと、巖島神社が当時の状態は結構、派手だったんだなと想像がつかしました。木更津は、確か明治時代に大火が5回ぐらいあり、ほとんど焼けてしまいました。古文書もほとんど残ってなくて、どこかに記録がないかなという思いがあります。例えば、広重が久津間に泊り、その泊まった家に広重が書いた日記があったということを、父親から聞いていました。
- あと、私の父方の祖母の出が長須賀の水野家なのですが、葛飾北斎が泊まった家なんです。日枝神社の「富士巻狩図」は、県立上総博物館にあった時は、割と自由に見ることができました。上総博物館の建物が、木更津市へ移管になった時に、「富士巻狩図」は日枝神社に引き上げましたので、博物館にあった時よりは、見学することが難しくなりました。
- 石川丈夫氏 確か墨田区の北斎記念館がオープンした時に、その絵馬が出品されていますよね。かなり、北斎ファンにとっては良い作品です。
- 古泉会長 ご発言がないようでしたら、本日の文化財保護審議会の審議を終了いたします。
- 委員の皆様には、長時間ご審議いただき、ありがとうございました。石川さんには、ご出席していただきまして、ありがとうございました。それでは、議長の任を降ろさせていただき、進行を事務局にお返しいたします。
- 齋藤係長 本日は大変お忙しい中、長時間ご審議いただきまして、誠にありがとうございました。次回の第2回木更津市文化財保護審議会につきましては、11月中の開催を予定しております。詳細につきましては、改めて、皆様のご都合をお伺いいたします。どうぞよろしく願いいたします。
- 本日は、ありがとうございました。

令和7年8月25日

議事録署名人 木更津市文化財保護審議会
会長 古泉 忠之 印